



039079-000-4

特54-482

徵兵令俗解 (改正)

池部 活三/編

M17.1

BCC-0324





太政官 第四十六號

徵兵令 別冊ノ 通改正ス

右奉勅旨 布告候事

明治十六年十二月二十八日

太政大臣 三條實美

陸軍卿 大山 巖

海軍卿 川村純義

(別冊)

徵兵令

第一章

總則

第一條

全國ノ 男子ノ 年齢滿十七歳ヨリ 滿四十歳迄ノ 者ハ

第二條

兵役ハ 陸軍海軍共ニ 常備兵役 後備兵役 及ヒ 國民

兵役トス

第三條

常備兵役ハ別テ現役及ヒ豫備役トス其現役ハ
三箇年ニシテ年滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫
備役ハ四箇年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス

第四條

後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之
ニ服ス

第五條

國民兵役ハ年滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニ
シテ常備兵役及ヒ後備兵役中ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條

各兵役ノ期限已ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際
スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若ク

第七條

航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ
重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ兵役ニ服スルコト

第二章

服役

第八條

陸軍現兵役ハ毎年所要ノ人員ニ應シ壯丁ノ身材
藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ヒ雜卒職工

第九條

陸軍雜卒ノ現役期限其職務ニ因リ之ヲ短縮スル
コトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ

海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ヒ島嶼
ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工
等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在
ラス

第十條 年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ
 現役ヲ志願スルコトヲ得
 第十一條 年齢滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立
 府縣立學校ヲ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服
 等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ
 服セシム
 其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命スルコト
 アル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減スルコトナシ
 第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ヒ官
 立公立學校ヲ除ク學校ノ歩兵操練料卒業證書所持スル者ハ其
 期未タ終ラスト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ
 第十三條 豫備兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常
 備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編制ス平常ニ在テハ技藝復習
 ノ爲メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ
 召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ
 之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト爲ス平常ニ在テ其技藝復習
 ノ爲メ召集シ及ヒ兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト
 豫備兵ニ同シ
 第十五條 國民兵ハ戰時若シハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集
 シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限り之ヲ召集シ隊伍ニ編制
 ヲテ軍役ニ充ツ
 第三章 免除及ビ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ痲疾又ハ不具等ニシテ徵兵
 検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不
 足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルト
 キハ之ヲ徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現
 役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾
 病ニ罹リ死没シタル者ノ兄或ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖
 ノ孫

第四項 戸主痲疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營
 ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第五項 戸主
 第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫
 ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校ノ卒業證書ヲ所持ス
 ル者ニシテ官立公立學校教員タル者

第三項 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生
 徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫
 第五項 身幹未タ定尺ニ滿タサル者
 第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘ

ザル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校ニ於テ修業一個年以上

ノ課程ヲ卒業シタル生徒ハ六個月以內徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲ケル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ル

トチ問ハス復習點呼ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若

クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコト

アル可シ

第一項 官吏以上及ビ兵長

第二項 教導職試験補チ

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫

術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラ

サル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集チ

猶豫スルコトアル可シ

第二十二條 左ニ掲ケル者ハ第十七條ニ照シテ徵集チ猶

豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戶主及ビ附籍戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 痲疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコ

第十 能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ
 非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續入チ罷メ更ニ定
 第三項 年六十歳未滿ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシ
 テ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコト非ス或ハ重罪
 ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ年六十
 十歳以上ノ者コシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或
 第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家チ再興シタル戸
 主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫
 第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ
 跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ
 孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ
 營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレ
 第七項 年六十歳未滿ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ
 一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ
 刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼
 第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニ
 シテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重
 罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若
 クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カス他ノ者ニシテ其跡

第九項 戸主失踪シテ五箇年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キ
タル戸主

第二十三條 第十八條第一項第二項第三項第四項 陸海軍
除第十九條第二十一條ニ當ル者ト雖モ第三十五條ニ示シ
タル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ
徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第四章 徵兵區及ビ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ビ府縣ノ區域ニ從フ其
軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ
師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス
但府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ師管毎ニ一區ヲ

設ク

軍管及ビ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條

各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其
他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス但現役徵員及
ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ
他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ビ近衛ノ諸兵ハ各軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨ
リ之ヲ徵集ス

第二十六條

抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス
府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身體検査終リタル後兵
役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號
ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰テ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應シ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ヒ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ舉グル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間

之ニ充ツ其期限内現役兵欠員フルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノ二ヨリ少カラサルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ヒ第十八條第三項ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齢滿二十七歲迄之ヲ第一豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ヒ第一豫備兵員ヲ終リタル者年齢滿三十歲迄ハ之ヲ第二豫備兵員トス但第十七條ニ當ル者第三

二豫備徴員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲クル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徴集ス

第三十三條 豫備徴員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徴集ス但第二豫備兵員ヲ徴集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿十七歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主本人ハ自身以下戸主トヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及ヒ職業ヲ記載シ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齢滿二十歳ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ書面ヲ以テ

戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ但二十歳未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及ハス

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第二十一條ニ當ル者其事故止ニ及ヒ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年

ノ九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三十七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徴集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者其地ニ於テ證人ト

爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出可シ
但第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ
第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ與ヘ服食
等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ
者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ
添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲クル者其年九月一日ニ至ルモ
事故猶止マサルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更
ニ檢査ヲ遂ケ他ノ徵員ニ先チ徵集ス可シ但戰時若クハ
事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徵集ノ期ヲ待タス
徵集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作
爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潜匿シタル
者又ハ正當ノ故ナク檢査所ニ參會セス又ハ第三十五條
第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヒス直
ニ現役ニ徵集シ又ハ翌年檢査ヲ遂ケ第四十條ニ掲クル
者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒス徵集ス

第四十二條 常備現役年計ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月
二十日第百四十一條ニ據リヨリ起算シ豫備役及ヒ後備役
年計ノ計算ハ其定例ニ據リ入營年ノ四月二十日ヨリ起
算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃
亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年
期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條 第三十五條 第三十六條 第三十七條 第三十八條 第三十九條
 條ノ届出ヲ爲サ、ル者及ヒ檢査時日ノ指定ヲ受ケ正當
 ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下
 ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潜匿シ若ク
 ハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ
 一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下
 ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ
 以テ之ヲ定ム

軍管師管

國名

武藏ノ内 麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區
 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 横濱區 荏原區 南豊嶋郡

第 一 第	第 二 第	第 三 第	第 四 第	第 五 第	第 六 第
北豊嶋郡 南足立郡 北足立郡 東多摩郡 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡 久良岐郡 檜蓑郡 都筑郡 新坐郡 入間郡 高麗郡 比企郡 横見郡 秩父郡 見玉郡 那珂郡 賀美郡 大里郡 旆郡 棒澤郡 男衾郡 相摸 甲斐 伊豆 上野 信濃ノ内 南佐久郡 北佐久郡 小縣郡 埴科郡 更級郡	本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 安房 上總 下總 常陸 下野	仙臺區 名取郡 盤城 岩代 羽前 越後 佐渡 柴田郡	宮城郡 黒川郡 加美郡 志田郡 玉造郡 遠田郡 栗原郡 登米郡 陸中 陸奥 羽後 本吉郡 桃生郡 牡鹿郡 氣仙郡	尾張ノ内 名古屋區 愛知郡 葉栗郡 中島郡 上伊那郡 下伊那郡 三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内 南牟婁郡 北牟婁郡 諏訪郡	東春日井郡 西春日井郡 美濃 加賀 能登 越中 飛騨 越前 尾張ノ内 丹羽郡

第七	第六	第五	第四	第三
渡島 後志 石狩 天塩 北見 釧路 根室 千嶋	豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩	阿波 讚岐 伊豫 土佐	安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門
攝津ノ内 東區 西區 南區 紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 那賀郡 西牟 山城 大和 河内 和泉 近江 伊賀 伊都郡 有田郡 日高郡 東牟 婁郡	攝津ノ内 神戶區 西成郡 島上郡 島下郡 豐島郡 能勢郡 播磨 淡路 若狹 丹 八郡 郡 荻原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡	波丹後 但馬 美作 備前 因幡 伯耆		

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス
 徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハス北海道ニ於テハ第七軍
 管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣管下函館江差福山三個所ヲ
 限リ之ヲ行ヒ第一軍管ノ管轄ニ屬セシム

○陸軍省達甲第四拾四號 府縣 沖繩札嶮根室
 ノ三縣ヲ除ク

今般第四十六號布告徵兵令改正相成候處本年徵兵適齡即
 十來十七年徵集ス可キ者ハ既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最
 早諸名簿整頓後ニ係ルヲ以テ十七年徵集ス可キ者ハ舊令
 一十一條第二十二條第二十五條第十七條乃至第十九條第二
 十條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ來十七年適齡即
 十十八年徵集ス可キ者ヨリ實施致候儀ト可心得此旨相達
 候事

明治十六年十二月廿八日 陸軍卿大山 巖

明治十六年十二月廿八日御届
明治十七年一月十日

出版

定價七錢五厘

編輯兼
出版人

東京府平民

池部活三

日本橋區馬喰町貳丁目一番地

東京府平民

發兌

石川治兵衛

日本橋區馬喰町貳丁目一番地

214-5,

民國二十六年十月五日

組
員
表

第一組

第二組

第一組
第二組
第三組
第四組

第一組
第二組
第三組
第四組